

いい子です薬で心制御する 哲夫
句意はわかるが「制御」という表現が硬いのでは（朔太郎）
タミフルのことだろうか（キミ代）
ブラックユーモア・ドラッグのことではないか（竜雄）
作者 教育現場の実話として選んだテーマ。精神科にかかっている生徒の多い現状を詠んだ。

バスが来るまでに覚悟を決めなくちゃ 耕平
歌のバスストップを思い浮かべた（三十六）
「覚悟」という表現が面白い（倫也）
バスが来る時間はあいまいなので、「バスが来るまでに」というところに面白さを感じる（団扇）
何の覚悟が具体性が欲しい（キミ代）
若い女性の句なら面白いと思う（竜雄）
作者 反対車線のバス停に立つ女性。そんな状況の中の心の葛藤を描いた。

さよならとさようならとの深い溝 三十六
また今度ねというのと、遠い別れとの対比。下五が重い。（ゆう子）
口語と文語、どちらも別れ。同じだと思う。（耕平）
表現の対比が作句の参考になる（博重）
お別れの言葉の男女差と捕らえた。（キミ代）
作者 さようならという方が重い。涙なくては迎えられない別れ。その違いを深い溝として詠んだ。

馬の目に予想はただのお念仏 博重
競馬で損をしたときの様子かな（利江）
作者 馬の耳に念仏、予想師の予想と客のやり取り。実感句。競馬に対する惜別の作品。

花いちもんめ昔の顔で寄る仲間 利江
「花いちもんめ」に切れがある。俳句の切れと川柳の切れについて、考えてみたい。（耕平）
作者 花吹雪の中、昔の仲間と会ったときの思いを作品にした。

今一度ガラガラポンにしてみたい 倫也
「ガラガラポン」は抽選器か？（朔太郎）
心機一転のイメージを持った（団扇）
お祭りの風景でとようか（和子）
上五を「人生を」として比較してみたい。（三十六）
作者 いろいろな事柄に対して「やりなおしたい」という意味で作った。

嘔吐きは泡沫候補にはなれず 帆波

「泡沫候補には」でなく「にも」の方がいいのではないか(三十六)

「嘔吐きは泡沫」「候補にはなれず」と切って読めばいくらか意味が解るが「泡沫候補」

という言葉が一般的ではないのでは。

作者 泡沫候補というとおかしな人もいるが、それぞれに自分の信じるところを説いている訳で、耳障りのいいことを言う有力候補よりも正直な人たちではと思った。

百均店回れば見える資本主義 ゆう子

資本主義を言うなら百均店でなくても、スーパーもデパートもある。(くんじ)

百均は中国製品が多いので、下五の資本主義と逢わないのではないか(朔太郎)
下五を社会主義とすればどうだろうか(三十六)

上五と下五の取り合わせが面白い(利江)

資本主義とかまえるのはどうか(竜雄)

下五は固いが、いろいろと考えられる(団扇)

作者 どうしてこれが百円？と思うことがよくある。資本主義の弱肉強食を思った。

雨だれに音符が跳ねる古バケツ 朔太郎

なつかしい風景(博重)

作者 ショパンの曲からの連想

外国の嫁が主力の農作業 竜雄

二十年前頃の外国人花嫁が今は主力であるという面白さ(ゆう子)

当時の外国人妻の方々は、実は知識層の人が多く、農業のやり方などについての知識は日本人よりあった(三十六)

今では介護までという話を聞く(玉枝)

農業全体のことと捕らえていいのかどうか(くんじ)

昔と逆転している現状と、これからの希望(哲夫)

「主力の」を「主力で」として比較してみたい(キミ代)

作者 皆様のコメントの通り、逆転している現状を詠んだ。

連行と拉致の違いが問われてる 団扇

何処が違うのか、政治的に利用されている状況を捉えている(三十六)

言葉の印象で言うと、戦争は人を殺すので「連行」くらいという感じがあり、その対比を考える(くんじ)

日本の外交の下手さを感じた(竜雄)

作者 今国外で問われている、そのものを表現してみた

今更に夫の偉さ知る自給 キミ代
上五が面白い「今更」がいい(まもる)(ゆう子)
今をよく詠んでいる(利江)
下五を「安い」と取るとどうなるか比較してみたい(哲夫)
ご主人をお金だけで見たのだろうか、という面白さ(竜雄)
作者 実感句。「値打ち」という課題で没になった作品でした。

一球が正札ついたように見え くんじ
野球界の馬鹿ばかしさを皮肉っていて面白い(まもる)
面白い(宣子)(キミ代)(倫也)
穿ちが効いている(利江)
作者 甲子園の事を思って詠んだ

後継ぎという捨石を村に置き 和子
捨石という言葉が、色々と連想させていい(ゆう子)(朔太郎)
今後の時代の変化によってどうなるのか、と考えさせられる(博重)
「捨石」が可哀相すぎる。もう少し希望が欲しい(哲夫)
「外国の嫁が」の作品と似ていて今を詠んでいる(くんじ)
地方の土地信仰、日本は農業国なんだと思う(竜雄)
「捨石」を「置く」と「捨石が」「いる」という表現を比較してみたい(団扇)
下五が不明。農を守る人は捨石なのかしら(利江)
作者 捨石は「墓を守る」「先祖を守る」という意識で使った表現

何の列サァ何でしょうでも並ぶ 宣子
面白い(博重)(成子)(玉枝)(和子)
戦争中を思い出した(くんじ)
よくある題材「何ですかビルを取り巻く行列は」という作品を読んだことがある(朔太郎)
「指差すと周りがみんな空を見る」という作品を詠んだことがある(三十六)
作者 大阪万博の時の思い出を詠んだ

まとめ売り中へうっかり稀購本 玉枝
ブックオフで珍しい本を探してきて、古書店へ売るといふ商法といふか手口を連想した(耕平)
作者 最近の本も安くなってしまって、目方売りみたいになっている。本当は貴重な本でも価値がわからなくなっている今を詠んだ

肩書きを信じ人格見損なう きみ
名刺だけ見て偉い人と思っていたら、そうではないという対比が面白い(倫也)(くんじ)
作者 名刺の肩書きです。なかなか深い句ができなくて見たり感じたままの作品になってしまいました。

投げた匙拾ってくれた菩薩様 博
生きている事への感謝を感じる(まもる)
匙を投げたのは自分では、匙は投げられるのではなく、投げるであるから(耕平)
作者 患者自身があきらめたものを、勇気付けて支えてくれた医者と患者の関係を詠んだ

本当の敵は隣で高鼾 まもる
「隣で」というところが面白い(朔太郎)
敵は酔っ払った夫か?(三十六)
憎い敵ではないのではないか。夫婦の事では(利江)
敵は妻なのか、仕事などの相方なのか(団扇)
作者 この作品は愛妻物語です

ずっと先ポックリ願う札潜め 成子
上五が気になる(朔太郎)
「札」が希望ではないのか(くんじ)
上五が欲張りに感じられて面白い(耕平)
下五が意味深でいい(団扇)
作者 寝たきりの母がポックリ寺のお札を忍ばせていた。お札を手に入れたときは元気だった。その事を思って詠んだ